

# 石堂の地蔵堂 (いしどうのじぞうどう)



地蔵堂は、斧淵にも多くあります。その中でも有名なものが、石堂の地蔵堂です。昔は地蔵堂で盛大な六月灯が行われていたそうです。

石堂の地蔵堂は、「乳の神」として古くから信仰されてきました。遠くからも、乳が出なかつたり不足したりする産婦がお参りに来ていました。

昔は、暮らしがあまり豊かではありませんでした。しかも、嫁に行くと、その家の人々に遠慮して十分食えることができなくて、赤ちゃんにやる乳もあまり出ないことがありました。そんな時、相談する人もいない若い母親は、神様や仏様におすがりするために、辛い思いをしながらお参りに来たのでしょう。

お参りするときには、餅米の粉で作った「しとぎ」を備えていたそうです。「しとぎ」は、稲の種まきをしたときや家を建てたときなどにも、「いぼの神」として知られる地蔵堂が宮ヶ原にあります。最近、交通事故で死亡する人が増えて、道端に地蔵堂が次々に建てられています。

## 鶴が岡城跡（つるがおかじょうあと）

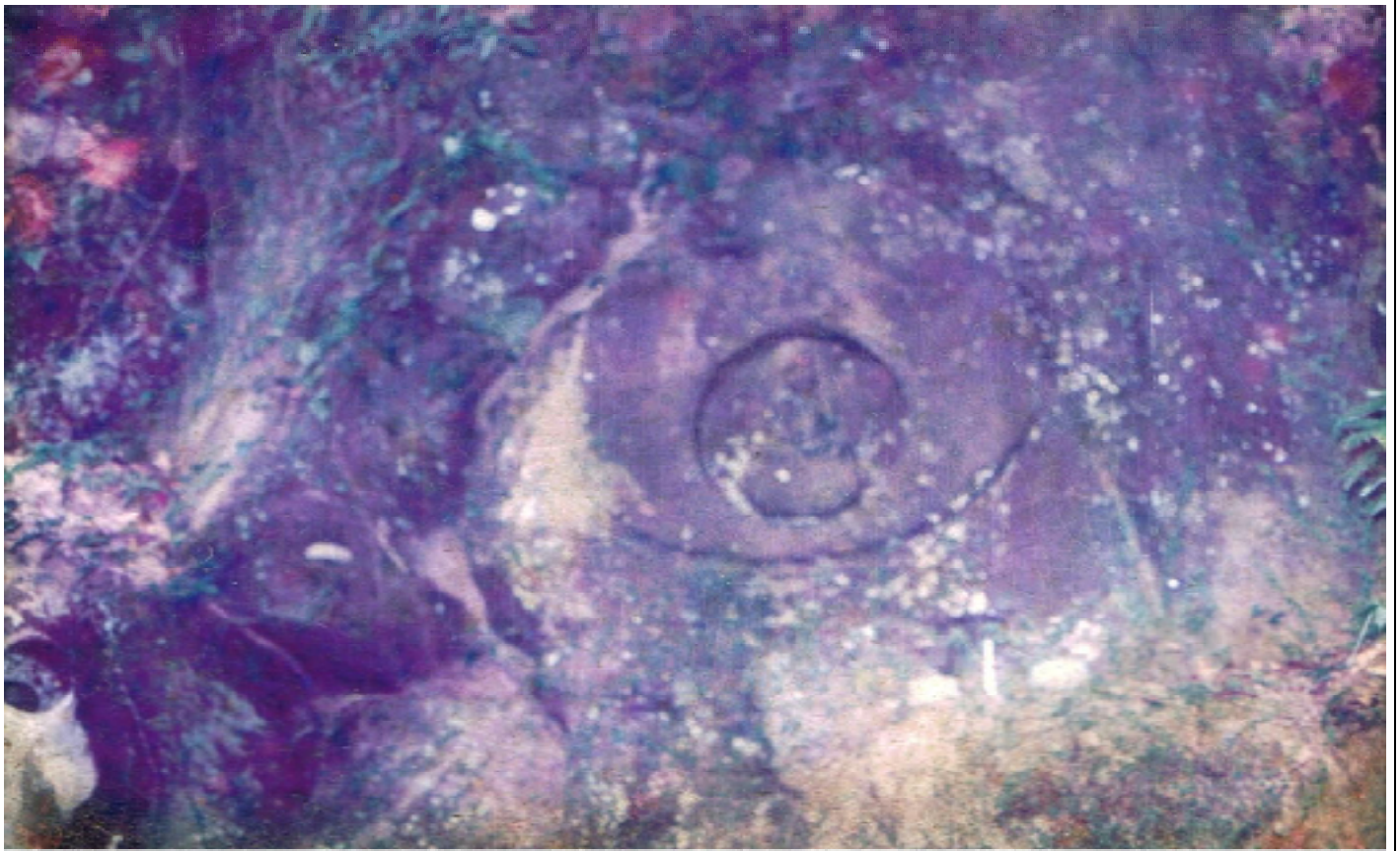


鶴が岡城は、三ヶ郷の高さ約 50 m，南北約 1 km，周囲約 4 km の丘陵地帯を利用して造られた山城です。東郷渋谷氏の居城で，別名東郷城ともいいます。鎌倉時代から江戸時代の途中までの長い間，城として役目を果たしていたと思われませんが，廃城の年は分からないそうです。

三ヶ郷の丘陵地帯は，場所が広い上に山や谷が複雑で，しかも，東には樋渡川，西には田海川が流れていて，攻めにくい場所になっていました。この複雑な地形を巧みに利用して，多くの登り口と出城を有する城として造り上げられていきました。その複雑さ，またその広さは，県内でも有数の城であったと思われま

す。この鶴が岡城には，本丸と二の丸と言われる中心となる城の他に，国見城，山崎城，南城，高城，川原城と多くの城が造られていて，お互いの城は，細い道でつながれ，しかも土手を築いたりして，互いに敵の侵入を防ぐようになっていました。城への入口はあまり多くないのが普通ですが，この鶴が岡城への入口は，石坂口，谷の口，大手口，家吉口，白岩口，山居口，池田口と，割合多くありました。入口がたくさんあっても，中に入ってからが複雑なので，安心できたのでしょう。国見城が一番高い場所にあり，今は東郷家の守護神として祀れた愛宕神社が建っています。

## 小路磨崖佛（こうじまがいぶつ）



三ヶ郷の山々の地形を利用して、東郷渋谷氏は鶴が岡城を造っていました。谷や崖は、敵が攻めてくるのを防ぐ役目を果たしていました。丘や谷が入り組んでいることで、どこを通過して攻めればよいか分からなくなるという迷路の役目も果たしていました。

その鶴が岡城の天然の岩崖に彫られたのが、小路磨崖佛と言われる仏像です。彫られた仏像の高さは44cmぐらいです。像は大日如来（だいにちによらい）で、その上に阿弥陀如来（あみだによらい）をあらわす梵字（ぼんじ）と言われる記号の文字が書かれています。きっと、鶴が岡城主の東郷渋谷氏の武運長久（ぶうんちょうきゅう）と家運隆盛（かうんりゅうせい）を祈るために彫られたものだろうということです。彫られたのは、今から約500年前の1517年となっています。

磨崖佛の左には、岩角を利用して灯籠が彫られています。これは、今から約250年前の1755年に彫られたものです。

# 諏訪神社 (すわじんしゃ)



長野県諏訪市に諏訪神社があります。この神社には武の神様が祀られています。

東郷渋谷氏の祖先は、紫尾神社に祀っていましたが、第五代東郷重親が諏訪神社を建てて大切にしました。今から約 700 年ぐらい前のことです。その後、第八代東郷重元が、1392 年に建て直したという記録があるようです。

場所は荒川内の樋渡川沿いです。以前はもっと広い土地を持っていたそうですが、西郷隆盛が西南戦争のときに軍資金を作るために売ってしまい、今の広さになったとのこと。

この神社には、鳥居が 2 つ並んで建っています。他の神社では、このように鳥居が 2 つ並んでいることはありません。どうしたのでしょうか。それは、上社と下社合わせて一社、横に 2 つ並ぶのが特色なのだそうです。

# 東郷重親の墓（とうごうしげちかのはか）



東郷重親は、今から約 700 年前の渋谷東郷氏の殿様で、鶴が岡城に住んでいました。渋谷氏は、斧渕城に住んでいた大前東郷氏と長い間戦っていましたが、どちらも勝つことができませんでした。

重親も大前氏と戦いましたが、決着がつきません。そこで、重親は「大前氏に勝つことができないのは、自分の力が足りないからで、祖先に申し訳ない。これから、大前氏に勝つことができるように祈って、自殺する。」とあって、鎧や兜を着けたまま、馬に乗って穴に飛び込んで自殺しました。重親は 23 歳でした。

この後、渋谷氏は大前氏に勝つことができたということですが、その後も大前氏との戦いは続きました。

墓の横には、東郷平八郎海軍大將が書いた迎霊の碑があります。東郷平八郎大將は、東郷重親の子孫で、明治時代に起きた日露戦争で、日本海軍の司令官をした人です。

写真の迎霊の碑の文字と同じ書が、東郷小学校に保管されています。

# 妙見宮（みょうけんぐう）



東郷小学校校庭の東の山にある神社が妙見宮です。妙見宮は、雨御中主神（あめのみなかぬしのかみ）と妙見大菩薩（みょうけんたいぼさつ）を祀っています。

雨御中主神は、日本神話の一番最初に出てくる三神の主神で、天の中央にあって宇宙を統括する神です。妙見菩薩は、北斗星のあるところから人々の幸福を祈っている仏様です。

妙見宮がいつ建てられたかははっきりしませんが、神殿の中にある石柱から、今から 650 年前の 1354 年にはあったことがうかがえます。この時代は、室町時代の初めの頃で、島津氏とその下で、東郷を支配していた東郷渋谷氏が協力して建てたものと思われます。

ところがその後、島津氏と東郷渋谷氏は仲が悪くなって争いを始めます。そのため、妙見宮は忘れ去られたようになってしまいます。1570 年、島津氏が完全に薩摩の国を平定して、東郷は宮之城島津家が支配することになり、宮之城島津氏の手によって妙見宮は再建されました。

東郷小学校では体を鍛えるため、76 段の階段を走り上げていたこともありましたが。その後、校庭に近い階段途中で新しい社（祠）が作られました。

## 松尾神社（まつおじんしゃ）



松尾神社は五社にあります。この神社には、平安時代の貴族のような男神の像と女神の像を中心に、同じく平安時代の武具を身に付けた随神の像を右と左に並べてあるそうです。そして、神々の像の前には、白馬の木像が3体並んでいるそうです。

男神と女神の像の底面に書いてある文字から、この像は、今から約200年前の1800年に宮之城に住んでいた仏像を作る職人で、大磯作也という人が作った像であることが分かります。大磯家は、当時有名な仏像を作ることを職業とする家で、薩摩郡内の多くの寺院の仏像や神像を作っています。特に、作也という人はすばらしい作品を作ることでも有名でした。他の木像も、大磯家の人々が、作った像だと言われています。

この神社に白馬が祀ってあることから、白馬は松尾神社の御神馬として扱われ、神社の信徒である氏子の人たちは、昔から白馬を飼うことをしないのだそうです。

# 経塚山板碑（きょうつかやまいたび）



経塚山は、斧淵の司野にあるほぼ円錐状の山です。「経塚」とは、「お経を埋めたところ」という意味です。

この経塚の下の台地に真言宗のお寺があり、その寺の法華経 8 巻を埋めたという言い伝えと、供養のために経文を埋めたという言い伝えと、豊臣秀吉が鹿児島征伐に来たときに、一向宗の禁止によりお経を埋めたという言い伝えがあります。

板碑（いたび）には、1335 年に建てたとあります。これは、鎌倉時代の最後の年になります。

昭和 4 年に、この経塚山に小さなお寺が建てられましたが、昭和 23 年の台風で壊れてしまったので、今は板碑だけになっています。板碑は 3 つ、それぞれ、1 つの石で造られています。高さ 1 m 20 cm から 85 cm の間で、1 つずつ違ってきます。

この板碑が建てられた年代に問題がなければ、今ある鹿児島県内の板碑では 4 番目に古い板碑ということになり、大変貴重なものです。今ある板碑は、司野の山から東郷の町を 700 年近く見ていることになるのです。板碑の横には、昭和 4 年に再興されたお寺の再興記念碑が建てられています。



# 愛宕神社 (あたごじんしゃ)



京都に愛宕山（あたごさん）という山があり，その頂上に愛宕神社があります。この神社は雷神を祀り，防火の守護神となっています。

斧淵の愛宕神社は，三ヶ郷の城内にあります。この場所は，鶴が岡城の一部である国見城があったところです。東郷渋谷氏が鶴が城主の鎮守・軍神として建てたといわれます。火事を防ぐ神様と戦いの神様が祀られています。

この神社を建てた時期がいつであるかは分かりませんが，渋谷氏が勢力を失ったのが 1587 年ですから，それより前であることは間違いありません。

東郷渋谷氏の後は，宮之城島津家など島津家の人々が支配することとなりました。

記録によると，1745 年頃に愛宕神社の社は再興され，1785 年には石段がつくられたということです。東郷小学校から見ると，西側に神社のある三ヶ郷の山々が見えます。

# 古城殿（ふっじょどん）



古城殿（ふっじょどん）は、今から約 1000 年前，平安時代と言われる頃から，東郷大前（とうごうおおくま）氏が居城としていた斧渚城があったところです。

東郷大前氏は，この城から約 300 年間，東郷の半分を含む一帯を支配していました。しかし，300 年間のうちの 200 年間は，東郷渋谷氏との戦いでした。

南北朝時代といって，日本が二つに分かれて戦ったときには，東郷渋谷氏と一緒に南朝側について戦いました。

室町時代になって，足利将軍が東郷大前氏の土地を取り上げて島津氏にやったので，入来の入来院氏の家臣となって東郷から勢力がなくなっていました。

城跡には，写真のような石塔が建てられています。これは，供養塔だろうと言われています。場所は，八幡ガソリンスタンドの後ろの山です。